

官報

號外

明治三十二年二月二十一日

火曜日

印刷局

第十三回 帝國議會 貴族院議事速記録第二十九號

明治三十二年二月二十日(月曜日)午前十時十二分開議

議事日程 第二十九號 明治三十二年二月二十日

午前十時開議

第一 商法施行法案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

第三 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

第五 登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止

第一讀會

第六 法律案(政府提出)

第一讀會

第七 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

第八 印紙稅法案(政府提出)

第一讀會

第九 農會法案(衆議院提出)

第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

第十一 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(衆議院提出)

第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會

○副議長(侯爵黑田長成君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀)

一昨十八日衆議院ヨリ政府提出大分縣下郡界變更法律案ヲ受領シタリ

同日左ノ衆議院提出案ヲ受領シタリ

實業教育費國庫補助法中改正法律案

關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案

日本銀行納付金ニ關スル法律案協議委員ニ於テ議長ニ子爵曾我祐準君副議長ニ子爵岡部長職君當選セラレタリ

各委員長副委員長左ノ通當選セラレタリ

議員ノ選舉及被選舉資格ニ關スル法律案特別委員會

委員長 松岡康毅君 副委員長 男爵小澤 武雄君

討論終局ノ動議ニ關スル規定取調ノ件外一件特別委員會

委員長 伯爵大原 重朝君 副委員長 男爵末松 謙澄君

一昨十八日遞信書記官湯河元臣君法典ニ關スル政府委員仰付ラレタリ

○副議長(侯爵黑田長成君) 今朝ハ議長ハ差岡ガゴザイマスルカラ本員代理

ヲ致シマス、議事日程第一、商法施行法案、政府提出、第一讀會

(小原書記官朗讀)

商法施行法案

右 勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十二年二月十七日

內閣總理大臣 侯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

陸軍大臣 伯爵西鄉從道

文部大臣 伯爵桂 太郎

外務大臣 伯爵樺山資紀

逓信大臣 伯爵青木周藏

海軍大臣 伯爵芳川顯正

司法大臣 山本權兵衛

農商務大臣 清浦奎吾

曾 福 荒 助

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

商法施行法案

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除

ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ有ス

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テ

ハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定

ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年

者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル

制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從

ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ヲ消滅シ

タル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サリシトキハ當事者ハ其施行ノ

後逓滞ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從

ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナ

ル文字ヲ用井サルモノハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス
會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲サザリシ者ハ其登記ヲ爲サザリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサザリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未ダ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一個月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作

リ且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財產目録トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第四百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十一條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未ダ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社

ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第五百十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未ダ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第三百三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總會ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總會ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第四百十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第二百十條第一號乃至第七號ニ掲ゲタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式

會社ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第四百十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百五十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無効トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治產ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滞ナク定款ニ
定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス
第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂
込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ
要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滞
ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス
第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テ
ハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコト
ヲ要ス

第六十九條 商法施行前ニ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リ
タル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲ス
コトヲ要ス
第七十條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下
ノ過料ニ處セラル

第七十一條 舊商法第二百八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役
ニノミ之ヲ適用ス
第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規
定ニ依リテ提起シタル訴訟ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキ
ト雖モ其任期間在任ス
第七十四條 商法第二百九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會召集ノ通
知ヲ發シタル場合ニ限リ會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第二百九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ
設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハ
サルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ
ハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券
發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス
第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ
一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメタルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間
内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第七十三條
第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條 商法施行前ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ
行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ
商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フ
モ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第五十七條 但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス
第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ
未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款
變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス
第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假
決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲
スコトヲ得

第八十五條 商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八十六條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ増加シ
タル場合ニ於テハ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲サ
ザリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ

二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
第八十七條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決
議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シテ解散ノ決
議ヲ發スルコトヲ要ス

第八十八條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以
下ノ過料ニ處セラル
第八十九條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘ
タル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第九十條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタ
ル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス
第九十一條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算
人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十二條 規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第九十三條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ
以テ特別ノ規程ヲ設ケルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立
シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十四條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第九十五條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第九十六條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第九十七條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第九十八條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第九十九條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第一百條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリ
タルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

一 普通保險約款
二 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法
三 保險種類及ヒ營業ノ範圍

四 責任準備金利用ノ方法

第九十九條 保險會社カ前條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百條 政府カ第九十八條ニ掲ケタル書類ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第一百一條 政府ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第一百二條 政府カ保險會社ノ業務又ハ會社財產ノ狀況ニ依リ其營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第一百三條 保險會社ハ總會終結ノ後遲滞ナク商法第九十條ニ掲ケタル書類及ヒ總會ノ決議録ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第一百四條 保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ保險會社ノ定時總會終結ノ後營業報告書、財產目錄若クハ貸借對照表ヲ閱覽ヲ求メ又ハ其總本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但保險會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其總本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス

第一百五條 保險會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコトヲ得ス生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル會社トハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第一百六條 保險會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出タシ其認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百七條 保險會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財產ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第一百九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應ジテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保險金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス

第二十條 規定ハ損害保險ヲ營業トスル會社ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第九十七條及ヒ前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第二十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得

第二十三條 第九十七條、第九十九條乃至第二百二條、第二百五條乃至第二百九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第四百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第一百十四條 第九十七條、第九十九條乃至第二百二條及ヒ第二百十條第二項ノ規定ハ商法施行前ヨリ保險事業ヲ營業者ニ之ヲ準用ス

第一百十五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營業場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第一百十六條 保險會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第一百十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第一百十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第一百十九條 規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第一百二十條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十一條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第一百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第一百二十四條 裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ時効ニ因リテ消滅ス

第一百二十五條 裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ時効ニ因リテ消滅ス

第一百二十六條 前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依リテ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依リテ要件ヲ具備セザルトキ日本ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第一百二十七條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第一百二十八條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十九條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ貸借借ニモ亦之ヲ適用ス

第一百三十條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第三百三十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書

類ノ書式ハ逕信大臣之ヲ定ム
第三百三十一條 委任ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シ

タル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委任ヲ爲スコトヲ

得
第三百三十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六個月間分明ナラサルトキ

ハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船

舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス
第三百三十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日

ノ期間カ未タ滿テニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第

六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委任ヲ爲スコトヲ得
第三百三十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタ

ル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス
第三百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依

リ爲スヘキ公告ニ之ヲ適用ス
第三百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタ

ル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス
第三百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三

十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準

用ス
第三百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如

ク改ム
商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決

定ヲ以テ破産ヲ宣告ス
裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百三十九條 破産宣告ノ申立ヲ爲ス債權者ハ裁判所ノ定ムル所ニ從ヒ破

産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス
債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ棄却

スルコトヲ得
第四百四十條 本人カ破産宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産手續ニ必要ナ

ル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破産宣告ノ申立

ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却

セサルトキ亦同シ
第四百四十一條 裁判所ハ破産事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ法律上

ノ補助ヲ求ムルコトヲ得
第四百四十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十一條第五號ヲ左

ノ如ク改ム
第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リ

タルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得ズシテ其住地ヲ離レタルトキ
第四百四十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十四條ヲ左ノ如ク

改ム
破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非サレハ會社ノ無限責任社

員、舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ノ業務擔當社員、株式

會社ノ取締役若クハ監査役、清算人、破産管財人又ハ商業會議所ノ會

員ト爲ルコトヲ得ス
第四百四十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十五條第三項ハ之

ヲ削除ス
第四百四十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十九條ヲ左ノ如ク

改ム
商人カ商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ

中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半数以上

ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所所地ヲ管轄スル裁判所ハ

一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得
附則

第四百四十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四百四十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第

二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第

五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三

條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其

效力ヲ存ス
(政府委員梅謙次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(梅謙次郎君) 此商法施行法案ハ此度提出ニ相成リマシタル所ノ

商法修正案ヲ施行スルニ附イテ必要ナル規程ヲ網羅致シマシタルモノデアリ

マス、凡ソ新法ヲ施行スルニ當リマシテハ新法ト舊法トノ關係ヲ定メマシ

コトハ最も必要デアリマスルガ、殊ニ商法ニ附キマシテハ御承知ノ通昨年七

月以來明治二十三年ニ發布相成リマシタル所ノ商法ガ施行セラレテ居リマス

ルノデ、此度ノ商法修正案ガ爲メ法律トナツテ施行セラル、際ニハ舊商法ト

新商法トノ關係ニ於キマシテ孰ヲ適用スベキカト云フコトヲ定メマセネバナ

ラヌ場合ガ夥多アリマスルノデ、ソレ等ノ規定ヲ總テ此商法施行法案中ニ設

ケマシタルデアリマスルカラ何卒速ニ御議決アラフコトヲ希望致シマス
○副議長(侯爵黑田長成君) 別段ニ御發議ガアリマセヌニ依ッテ右議案ノ審

査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス
○松永安彦君 本案委員ノ選舉ハ議長ヘ御委託

○男爵西五辻文仲君 贊成
○伯爵勸修寺顯允君 贊成
○副議長(侯爵黑田長成君) 議長委託ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシト述フル者アリ)
○副議長(侯爵黑田長成君) 然ラバ其通致シマス、登錄稅法中改正法律案、

政府提出、衆議院送付、第一讀會
(小原書記官朗讀)
登錄稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也
明治三十二年二月十五日
衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公喬近衛篤實殿

第二條 (左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)
不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ム

一 家督相續ニ因ル所有權ノ取得 不動產價格 千分ノ十五
但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

十七	請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	不動產每一個	金二十錢
十八	假登記	不動產每一個	金二十錢
十九	豫告登記	不動產每一個	金二十錢
二十	附記登記	不動產每一個	金二十錢
二十一	登記ノ更正、變更又ハ抹消	不動產每一個	金十錢
第三條	船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
一	家督相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ三
二	但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモ、ハ其ノ持分ノ價格ニ依ル		
三	遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ六
四	但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモ、ハ其ノ持分ノ價格ニ依ル		
五	相續以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ十二
六	但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモ、ハ其ノ持分ノ價格ニ依ル		
七	從來保有セル所有權ノ保存	船舶價格	千分ノ一
八	質借權ノ取得	船舶價格	千分ノ一
九	存續期間十年未滿	船舶價格	千分ノ二
十	存續期間十年以上	船舶價格	千分ノ一
十一	但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス		
十二	質權、抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ六
十三	但シ債權金額ナキトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
十四	競賣ノ申立	債權金額	千分ノ六
十五	但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモ		
十六	假差押、假處分	債權金額	千分ノ四
十七	但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモ		
十八	抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ六
十九	但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモ		
二十	登記ノ更正、變更又ハ抹消	船舶每一個	金十錢
二十一	土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
二十二	新規登録	地價	千分ノ二十
二十三	地價ノ設定	地價	千分ノ十
二十四	地價ノ修正	地價	千分ノ十
二十五	開墾	地價	千分ノ十
二十六	鐵下年期付與	地價	千分ノ十
二十七	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
二十八	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
二十九	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十一	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十二	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十三	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十四	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十五	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十六	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十七	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十八	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
三十九	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十一	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十二	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十三	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十四	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十五	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十六	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十七	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十八	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
四十九	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十
五十	鐵下年期ノ繼年期付與	地價	千分ノ十

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)
登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案
明治十九年法律第一號登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定ハ特許
法意匠法及商標法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(政府委員倉富勇二郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(倉富勇二郎君) 現行ノ法律ニ於キマシテハ御承知ノ通農商務省
ニ於キマシテ特許意匠商標ノ登記ヲ致シマス、更ニ其コトヲ裁判所ニ於テ登
記ヲ致スコトニナツテ居リマス、斯ノ如ク農商務省デ登録ヲ
致シタ上、更ニ裁判所デ登記ヲ致スノハ其登録ノコトヲ一般ノ人ニ知ラシム
ルヨリ外ニ目的ハナイン、ゴザイマス、然ルニ從來ノ經驗ニ依リマス、ト
ドウモ農商務省ニ於テ登録シタモノヲ更ニ裁判所ニ於テ登記スル必要ナ
コトヲ認メマス、尙ホ少シ委シク申上ゲマス、明治二十三年カラ明治三十
マデノ間ニ於テ裁判所デ特許意匠商標ノコトニ附イテ登記ヲ致シマス、件數
ハ八千九百六十五件程ゴザイマス、其八千九百六十五件ノ登記ニ附イテ一
同シク明治二十三年カラ三十年ノ間ニ於テ登記ノ謄本又ハ拔書ノ請求ヲ致
タ件數ガ僅ニ七件程デ始、一年平均一件ニモ足リナイ少數デゴザイマス、又
登記ハ何人モ閱覽ガ出來ルコトニナツテ居リマス、明治二十三年カラ三十
マデノ間ニ登記ノ閱覽ヲ請求シタ者ハ一件モナイノデゴザイマス、斯様ナ次
第デゴザイマス、カ、此特許意匠商標ノコトニ附イテ裁判所ニ於テ登記スル
ト云フコトハ實際必要ノナイコト、信ジマス、殊ニ此節特許意匠商標ニ關
スル法律ハ總テ改正セラル、コトニナツテ居リマス、カ、此特許意匠商標ニ關
匠商標ノ登記ヲスルコトハ廢止イテ云フ考ヲ以テ此法律案ヲ提出シタノデ
アリマス、ドウゾ速ニ御決定アラフコトヲ希望シマス
○副議長(侯爵黑田長成君) 別段御發議ガゴザイマセヌケレバ委員ノ選舉ニ
移リマス

○伯爵勸修寺顯允君 此委員ハ前ノ登錄稅法中改正法律案ト同一ノ委員ニ付
託セラレシコトヲ希望シマス
○子爵牧野忠篤君 本案ハ今勸修寺伯爵ヨリ同一ノ委員ニト云フ御發議デゴザ
イマシタ、カ、本員ハ矢張特別委員ヲ設ケラレシコトヲ……
○副議長(侯爵黑田長成君) 勸修寺伯爵ニハ贊成ハゴザイマセヌガ牧野子爵
ニハ贊成カゴザイマス、其通決シテ御異議ハゴザイマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
然ラバ議長委託ニ決シマス、印紙稅法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
ノ續、特別委員長報告

(子爵由利公正君演壇ニ登ル)

○子爵由利公正君 特別委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ此委員會ニ
於テ衆議院カラ同リマシテ修正ノ上ニ又修正ガ加リマシタ、故ニ修正ガ二様ニ
ナリマシテ遂ニ政府案ト三通リニナツテ居リマス、少シ混雜シテ居リマス
ガ第二條第三條ノ間ニ衆議院ノ修正ガ多ウゴザイマス、本委員會ニ於テ削
除ニナリマシタ、遂ニ原案ニ復活シタ次第デアリマス、ガ其他ニモ修正ノ所ガ
二三箇條アリマス、ルニ附キマシテ先ヅ順序ヲ逐フテ御報告致シ、ト相連ナ
ウト存ジマス、ルニ二條三條ハ事柄ハ別デアリマス、カ、二條三條ノ次第ヲ先
キニ御話
委員會ノ議論ノアリマシタコトニナリマス、カ、法案デアリマス、ルニ一體此
ヲ致シマス、此法案ハ古ク發布ニナリマシタ、法案デアリマス、ルニ一體此

稅率ガ減ニ細カニ累進稅ニナツテ居リマス、ルニ民間ノ煩ニ堪ヘヌト申ス
譯カラシマシテ政府ニ於テモ數年經驗ノ上、數多ノ事實ノ上ニ差支ガナイヤウ
ニト云フコトヲ心配ラサレテ此法案ヲ提出サレタモノト見エマス、ルニ故
ニ第三條ノ此印紙稅ガ皆二錢ニナツテ居リマス、ルニ數多ノ此委任狀デア
マス、ルニカ、爲替手形、銀行票、カ、二錢ニナツテ居リマス、ルニ數多ノ此委任狀デア
ラレマシタ、カ、爲替手形、銀行票、カ、二錢ニナツテ居リマス、ルニ數多ノ此委任狀デア
ニサウナリマス、ト此印紙稅ガ餘程減ツテ參リマス、ルニ見エマス、ルニ數多ノ此委任狀デア
キニ不足ヲ告ゲマス、ルニ全ク此第二條ノ金高ノ一分ノ五ノ割合ヲ以テ印
紙稅ヲ納ムベシト云フコトヲ第二條ニ舉ゲラレタ、カ、其不足ヲ補ハナゲタ
ルノデアリマス、然ルニ衆議院ノ修正ヲ致シマス、ルニ此朱書ノ修正ガ此手
元ニ同ツテ居リマス、然ルニ衆議院ノ修正ヲ致シマス、ルニ此朱書ノ修正ガ此手
ウ云フコトガ修正ニナツテ參リマス、ルニ見エマス、ルニ數多ノ此委任狀デア
レゾレ實地ニ御巧者ナ方モ往々アリマシタ、實地ニ附イテ數多ノ議論ガアリ
シテ熟議ノ上デ此增加累進稅ノ煩ヲ避ケタ、カ、ト申スコトヲ遂ニ三條ノ衆議院
ノ修正ハ取消サレテ本案ニ復活スルコト云フコトニ全會一致ヲ以テ成リマシ
ノデアリマス、ソレカラ此三條ノ末ノ所ニ擔保品差入證書、擔保品預證書、印紙
稅二錢ト云フコトガ一ツ加リマシタ、カ、是モ此事實ニ感シラレテ居リ諸君カ
ラ其事實ヲ舉ゲテ段々協議ニナリマシタ、カ、サウシテ此一箇條ヲ此處ヘ加ヘラ
レタ譯デアリマス、ソレハドウカト云ヒマス、ルニ此處ニ鐵道株券ト云フモノ
ヲ抵當ニ預リマス、ルニ其鐵道株券ト云フモノヲ例ヘバ預リマス、ルニ鐵道株券ト云フモノ
圓ノ形ニ預リマス、ルニ其鐵道株券ト云フモノヲ例ヘバ預リマス、ルニ鐵道株券ト云フモノ
デ又更ニ稅ヲ取ラレトス、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
テ此稅ヲ二重ニ取ラレトス、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
モ甚ダ危イ依テ此處ヘ一箇條ヲ加ヘラレタ、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
トデ念ヲ入レテ此處ヘ一箇條ヲ加ヘラレタ、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
ス、ソレカラ第四條ニ於キマシテ第六項ノ「小切手」ト云フコトガ此處ヘ入
未滿ノ爲替手形、約束手形、營業ニ關セサル受取書」ト云フコトガ此處ヘ入
レマシタ、カ、簡條ヲ逐フテ段々逐テ來マス、ト、此箇條ガ這入ツテ居ナケ
レバ事ガ拔ケマス、故ニ此處ヘ加ヘラレタ、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
第九條ノ「證書」又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ」ト云フコトガ此處ヘ
這入リマス、ルニ是ハ衆議院ノ修正ノ通デアリマス、ソレカラ第九條ノ此處ニ
テ「印章」ト云フコトヲ「署名」ト云フコトニ改メラレタ、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
第十四條ノ「此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス」ト云フコトガ此處ヘ加ヘラ
レタ、カ、施行期限ガ定メラレタ、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
ガ至極宜シイト云フコトデアリマス、カ、云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依
マス、其餘ハ原案ノ通總テ多數ヲ以テ可決スベシト云フコトニナリマシタ、カ、
第デアリマス、カ、此段ヲ御報告致シマス

(政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル)
○政府委員(目賀田種太郎君) 委員會ニ於ケル修正第三條ニ「擔保品證書擔
保品預證書、印紙稅二錢」トアリマス、カ、是ハ何分委員會ノ御評議ノ理由ヲ解シ
兼ネルノデゴザイマシタ、カ、殆ド尙ホ御尋デモ申サヌケ、何故此擔保品差入證書
擔保品預證書、斯ウ云フ對物ノモノハ、所謂對物擔保ハ二錢ニシテ置クノデア
ルカ、ト云フハ、若シ對人ノ擔保デアツテ即チ保證人ニナツテ保證ノ義務ヲ負フ

時分ニハ其證書ハ即チ本案ノ第二條ニ據テ一通毎ニ二分ノ五ノ課稅ニナル、
同ジク擔保證書デアッテ對物デアルト云フト二錢ニナル、ナゼ對人ト對物擔
保ニ於テイサウ云フ稅率ニ差ガアルカ更ニ其釋ガ分ナリノデゴザイマス、
免ニ角斯ノ如ク御修正ニ點ニ附イテハ御同意シ兼テ居リマス
○富田鐵之助君 委員長ニ一應御尋レタイノデアリマス、衆議院ニ於テ第三
條ノ全部ヲ削除シタ、ツレバ委員會デアハ皆復活サレテアリマスガ此復活致
サレタ理由ヲ今少シ精シク此說明ヲ請ヒタイと思ヒマス
○子爵由利公正君 富田君ニ御答ヲ致シマスガ此委員會ノ議論ハ衆議院ノ修
正ハ即チ朱書デ御手許ニ回ッテ居リマス通五錢十錢二十錢ト云フ累進ニ
ナッテ居リマスノデ、ツレバ是ガ累進ニナルト云フコトハ隨分世間ニ煩ノ
多イコトデアアルサウデアリマスツレバタメニドウカ折角累進ノ煩ヲ避ケラ
レタ法案ノコトデアアルカラドウカ元ノ通二錢ノ稅ニ止メテ置キタイト云フ
ノ論ニ過ギナイノデアアリマス、其外ニ斯様ナ理由ト云フコトハ委員會デアハ
別ニアリマセメデアリマス、一ニ累進ノ煩ヲ避ケラレルト云フコトデアアリ
マスカラ……

○副議長(侯爵黑田長成君) 他ニ御發議ガゴザイマセネバ第二讀會ヲ開クヤ
否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ニ移スベシトシテ御異存ハゴザイマセヌ
カ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○子爵小笠原壽長君 議事日程ヲ變更シテ直チニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ
希望致シマス
○子爵由利公正君 贊成
○子爵本莊壽巨君 贊成
○子爵錦織教久君 贊成
○子爵山本實庸君 贊成
○伯爵勸修寺顯允君 贊成
○副議長(侯爵黑田長成君) 直チニ第二讀會ヲ開クニ御異議ハゴザイマセヌ
カ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵黑田長成君) 然ラバ二讀會ヲ開キマス、先ヅ第一條第二條ヲ
問題ニ供シマス

〔河田書記官朗讀〕
第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財
產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ
依リ印紙稅ヲ納ムヘシ
第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載
金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナ
ルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキ
ハ一錢ニ切上クルモノトス
金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ
依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト
看做ス
○副議長(侯爵黑田長成君) 第一條第二條御異議ガナケレバ原案ニ決シマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵黑田長成君) 然ラバ原案ニ決シマス第三條

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限
リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ
金高二百圓以下
金高二千圓以下
金高二千圓以上
〔特別委員會ノ修正ハ第三條悉ク刪除デアリマスト述フ〕
○副議長(侯爵黑田長成君) 特別委員ノ修正ハ刪除デアリマスカラ即チ委員
會ノ修正ニ附イテハ決ヲ採リマセヌ、衆議院修正即チ原案ニ附イテ決ヲ採リ
マス、原案贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 ナシ
○副議長(侯爵黑田長成君) 起立ハアリマセヌカラ削除ニ決シマス、第四條
第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年
以內ノ附込ニ對シテ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
委任狀
銀行預金證書
船荷證券
運送貨物引換證
倉荷預證券
倉荷質入證券
保險證券
債券
株式申込證
地上權、永小作權、地役權ニ關ス
ル證書
使用貸借、質貸借、雇傭、寄託、
定期金ニ關スル契約證書
定款及組合契約書
權利ノ變更ニ關スル證書
追認承認ニ關スル證書
物品切手
賣買仕切書
送狀
受取書
金高記載ナキ證書
通帳
判取帳
〔特別委員會ノ修正ハ第三條トナリマシテ「委任狀」ノ次ニ「爲替手形印
紙稅二錢約束手形印紙稅二錢」ツレカラズト末ノ「金高記載ナキ證
書」ノ次ニ「擔保品差入證書、擔保品預證書印紙稅一錢」ツレダケ加
ヘマシタト述フ〕
○子爵小笠原壽長君 唯今政府委員カラ擔保品差入證書ニ附イテ御説ガアリ
マシタガ其コトニ附イテ一言致シタイ私モ委員ノ一人デアリマスガ決シテ委
員會デアハ無趣意デアレタ譯デナイト云フコトヲ一言辯明シタイと思ヒマスガ

○政府委員(藤田四郎君) 御答ヲ致シマスガ是ハ到底農會ヲ組織シマスルニハ多少ノ歲月ガナケレバ出來マセヌ、今日ニ於キマシテモ尙ホアリマスケレドモ此勅令等ヲ拵ヘマシテサウシテツレ、準備ヲ致シマシテツレニ依ッテ農會ヲ組織スルコトニナリマスレバ少クモ數月ヲ費シマセウト思ヒマス、且ツ經費十五萬圓ヲ國庫カラ補助シナケレバナラヌコトデゴザンスルカラ今日ノ時勢ニ於キマシテ三十三年度カラ政府ガ補助スルト云フコトニナレバ固ナイト云フコトヲ申シマシマス

○男爵船越衛君 此四條ヲ見ルト各府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ズ、サウスルト三府四十幾縣デアルデ一府縣四千圓ト見ルト大分ニナリマスガ、此五條デハ一箇年十五萬ヲ超ユルヲ得ズ、此十五萬圓ハドウ云フコトカラ之ヲ超ユルヲ得ズト云フコトニナリテ居リマス

○政府委員(藤田四郎君) 四千圓ト云フノハ極度デゴザンスルカラ政府ニ於キマシテ其農會ノ實際ノ狀況ニ依ッテ四千圓以內ヲ補助スルコトニナリマス、デ十五萬圓ト云フ金額ハ政府ニ於キマシテハ先ヅツコラ位ノ金額ナラバ隨分農會ヲシテ相當ノ業務ヲ爲サシムルタメノ補助ニ適當ナル度合デアラウト信ジマシマス、即チ三府四十三縣ナリノモノニ凡ソ四千圓宛トシテ十五萬圓前後ニ成リマスノデゴザイマス

○田中芳男君 御序ニ伺ヒマス、チヨット質問致シマスルガ是ハ勿論衆議院提出案デゴザイマスルカラシテ政府委員カラ御答辯ナサルノハ御迷惑ナコトデゴザイマセウケレドモドウゾ御序ニ御答辯ヲ願ヒタイ、此農會ト申シマスルモノハ唯今現ニ行レテ居ル府縣ノ農會、郡ノ農會、村農會ト云フモノガゴザイマスルガ、ツレトハ全ク別ノモノニナリマスルカ、或ハツレニ當籍マルヤウニナリマスルカ、ツレトハチヨット伺ヒマス

○政府委員(藤田四郎君) 此法律ニ據リマス第二條デ命令規則ト云フモノガ出來ルノデゴザンスルガ、其命令ノ出來マシタ上デナケレバ果シテツレト合フヤ否ヤト云フコトハ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、併ナガラ今日成立ッテ居ル農會ト云フモノ即チ是等ノ農會ノ案ト同ジ主意ニ依ッテ成立ッテ居ルノデゴザンスル、併ナガラ此法律ガ發布セラレマシタ場合ニ於キマシテ其命令ナリ勅令ナリ其外ノモノガ出來マシテ其主意ニ相適ハヌモノガ出來マシタナラバツレハ直サナケレバナリマセヌガ、唯今茲デ私ガ明言スルコトハ出來ナイ有様デゴザイマス

○子爵堀田正義君 チヨット政府委員ニ質問致シマス、唯今ハ農會ト云フモノガ各府縣ニ府縣農會郡農會町村農會等ガ皆アルヤウニ思ヒマスガ、唯今現在農會ノ設立シテアル數ハドウ位アルノデアリマスカ、大數分ツテ居ルナラト伺ヒタイ

○政府委員(藤田四郎君) 御答シマスガ此農會ノ町村ナリ郡農會ナリノ數ハ今日ハツキリ致シテ居リマセヌ、大抵府縣ニハ農會ト云フヤウナモノガ出來テ居リマスルヤウデゴザンスルガ、併ナガラ町村農會ト云フモノモ出來テ居リマスルガ又有名無實ノモノモ幾ラモアリマセウ、果シテ今日農會ノ事務ヲ取ツテ居ルモノガ幾許アルヤ近頃取調ベタモノガアリマセヌカラ分リマセヌ、併ナガラ數ハ澤山ゴザイマス、果シテツレガ働イテ居ルヤ否ヤト云フコトハ分リマセヌ

○子爵堀田正義君 ツレデヤ一府縣ニハ農會ト云フモノハ普ク一ツ宛アルコトニナリテ居ル、其外ニ郡農會ト云フモノモアリ、町村農會ノ如キハマダアル

テモ其用ヲ爲スカドウ云フ働ヲ爲スカハ分ラヌヤウデゴザイマスガ、縣農會或ハ郡農會ト云フモノハ其府縣相當ノ働キヲナシテ居ルノデゴザイマスカ如何デゴザイマス

○政府委員(藤田四郎君) 府縣令ヲ以テ發シマシテ以テ成立ッテ居ル農會ト云フモノモ大分ゴザイマス、又中ニ一二箇所デゴザンスルガ縣農會ト申スモノモナイ所ガアルヤニ覺エトリマス、今日政府ニ於キマシテハ直接ニ此監督ヲ致シテ居リマセヌデ其行務ノ成績如何ハ茲デ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、御承知ノ通りウツモノト云フモノハ其イ人ガ世話ヲスレバ能ク行クシ惡ルイ人ガ世話ヲスレバ惡ル行クト云フ譯デゴザンスルカラ、是マデハ大體先ヅ宜ク行ツテ居ル方デハアルト信ジテ居リマスガ、悉ク如何ノ場合デアルトハ申上ゲラレマセヌ、併ナガラ茲ニ法律ガ出來マシテツレニ據リマシテ政府ガ……中央政府ニ於テ地方廳ニツレ、嚴重ニ監督ヲスルコトニナレバ其イ結果ヲ見ルダラウト信ジテ居リマス

○伯爵萬里小路通房君 此四條ノ金額ノコトハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ズト云フ、サウスレ跡ニ十五萬圓トアリマス、チヨット考ヘテ見マスト四千圓ト云フモノハ最高點ヲ茲ニ舉ゲテアルモノト考ヘマス、ツレヨリ超ユルナ、一府縣ニ一ツ拵ヘテモ四十五位ニナリモノト思ヒマスルガ、ツレヨリチヨット勘定シマスト十五萬圓ヲ超エテマシマスガ、ツレハ何ゾ外ニ補助ト云フ金ガ出來ル目的ガアツテ之ヲ……何カ目安デモアリマスルカ、ドンナコトカ……

○政府委員(藤田四郎君) 御答シマスルガ此案ノ成立チマスル場合ニ置キマシテ政府ノ希望スル所ノ考ハ總テ此隨意ノ會ニ致シタイト云フ考デゴザイマシタ、申上ゲセニ依ッテ成立ツ所ノ會ニ致シタイト云フ考デゴザイマシタ、即チ強制ハ致シマセヌ、其結果トシテ必シモ各縣々トモ必ズ興ルト云フコトハ申上ゲラレマセヌガ、四千圓宛各府縣悉ク補助致シマシタナラバ十五萬圓ヲ超エマスルデゴザイマスガ、是ハ限度ヲ極メマシタモノデゴザイマシテ實際ソレダケニハナラヌ考デゴザイマス、又之ヲ府縣ノ農會ニ給與スルカ郡ノ農會ニ給與スルカ町村農會ニ補助スルカト云フコトハ附イテハ未ダ政府ニ於キマシテハ定案ハゴザイマセヌ、譬ヘテ申シマスレバ、若シ郡役所ヲ一ノ範圍ト見マシタナラバ五百ノ郡役所ニ對シテ三百圓補助スレバ十五萬圓ニナリ、或ハ町村ノ……二萬足ラズノ町村ニ對シマシテ五百圓宛給與スレバ十萬圓トナルト云フヤウナ譯デゴザンシテ、詰リツコノ所ハ確定シタル考ハ未ダゴザイマセヌ

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセズハ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○鳥越貞敏君 本案ノ委員ハ議長ノ指名ヲ望ミマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○伯爵萬里小路通房君 此委員ハ前ニ委員ニ付託ニナリテ居リマスルモノトツレト同一委員ニ付託致シタイト思ヒマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 府縣農事試驗場國庫補助法案ノ委員ニ付託スルノデゴザイマス

○伯爵萬里小路通房君 ツレニ殆ド似タモノデゴザイマスルカラ同一委員ニ付託スルコトヲ希望シマス

○男爵中川與長君 萬里小路伯爵ニ贊成

